

平成30年度 第1回東区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成30年6月28日(木)午後2時から午後3時30分まで
会場	東区プラザ ホール
出席者	東区自治協議会委員26名(欠席3名) 教育委員:田中教育委員、小野沢教育委員 事務局:教育次長、教育総務課長、地域教育推進課長、学校支援課長補佐 学校人事課総括管理主事、中地区公民館長、中央図書館館長補佐、 東区教育支援センター所長 他1名 東区役所:堀内区長、夏目副区長、清水地域課長、他課長3名 傍聴者:3名
議事	1 開会 2 教育委員挨拶(田中教育委員、小野沢教育委員) 3 市立幼稚園の再編について(教育総務課長) 4 平成30年度教育委員会の施策について(教育次長) 5 意見交換(司会 東区教育支援センター所長)
自治協委員	ふれあいスクールのスタッフをさせていただいているのですけれども、先月、木戸小学校のスタッフで竹とんぼとか工作物づくりの上手なスタッフさんに来ていただいて披露してもらいましたら、子どもたちに大好評でした。私も得意な地球温暖化防止の話とか卓球、囲碁などを子どもたちとやって触れ合っています。今朝のNHKの「あさいち」でも放送されていましたけれども、今、東京の子どもたちで囲碁の愛好者が急増しているということが話題になっていました。 そういうことで、ふれあいスクールの、得意なスタッフさんがいろいろ各校におられると思うのですけれども、どの方がどの分野が得意かということが分からないものですから、もしネットワークのようなものとか、少し、その辺のメンバーの問い合わせをどこにしたらいいとか、その辺を検討していただければと思って提案しました。
地域教育推進課長	私ども、「地域と学校パートナーシップ事業」とともに、今、委員からお話がありました子どもふれあいスクールを担当しておりますので、私からお話させていただきます。 子どもふれあいスクールですが、各小学校でPTAと教育委員会が共催で取組を進めておりまして、たくさんのスタッフの皆さんから入っていただいています。その中に、今ご指摘のような竹とんぼとか囲碁、将棋とか、さまざま得意なことをお持ちの方々に入っていただきながら、子どもたちとのやりとりをしていただいているかと思えます。委員のご質問はその点ではないかと思っております。 専門の技能をお持ちの方の紹介をしてほしいのだけれどもということになりますけれども、基本的には、学校の周辺、校区内に住んでいる方がボランティアで入っていただいている場合が多いです。ただ、校区を超えて入っていらっしゃる場合もありますが、基本的には、それぞれの方々のネットワークで、口コミでお声掛けをいただくところが多いかと思えます。

また、これ以外ですが、生涯学習センターでボランティアバンクという人材バンクのリストを用意しています。このボランティアバンクの中には、それぞれの得意な方々のご紹介が入っておりますので、このようなものを活かしていただけると大変ありがたいと思っております。

また、担当している運営主任の皆さん、それから各学校に配置されている地域教育コーディネーターの皆さんもさまざまな情報をお持ちです。そのような情報のやり取りをつうじて、より一層多くの方に参加していただければと思っております。よろしく願いいたします。

自治協委員

お聞きしたかったのは、最初に次長がお話されました通学路等における危険個所の総点検のことで少しお聞きしたいのです。

たしかに不審者、小針の事件以来、小学校にだいぶ教育委員会からもいろいろな指導があったように聞いておりますけれども、この区域に限って言いますと、不審者が出てその被害に遭ったのは圧倒的に中学生の女の子が多いのです。昨年秋から数件ありまして、そのたびに、私も見守り隊に入っておりますので、地域の人に声を掛けてパトロールに出ているのですけれども、今回、これを見ますと、小学校に対していろいろご指導をされているようですけれども、中学校に対してはこういう働きかけとか、小学校の先生からは、教育委員会からこういう安全マップを作って会議をやってそれを報告しなさいというような話がきていますという話は聞くのですけれども、中学校からはそういう話は出てきておりません。

小学生も中学生もこの区域の子どもたちですので、中学生に限らず、小学生に限らず、子どもたちの安全は地域でということで、自主的に、パトロールを任意でいろいろ回っていますけれども、この資料を見る範囲では、各小学校で実施とか、小学校に限っているようですが、繰り返しますけれども、中学校に対しての何か働きかけとか指導というのは、あまりないのでしょうか。

学校支援課
長補佐

子どもたちを見守っていただきまして、本当にありがとうございます。

今ほどご質問いただいた件でございます。まず、この緊急合同総点検会議を実施するにあたりまして、各区の教育支援センター、そして市民生活課、学校支援課等関係者で集まりまして、この会議の持ち方について打ち合わせを行いました。その際に、今ほどご指摘のあったように、中学生も被害に遭っているという状況から、中学校でやる必要はないのかという意見も出ました。しかし、小学校から中学校、共通していますので、まず小学校で地域の危険個所を点検し、そして中学校ともそれを情報共有していこうということで、今、話を進めているところでございます。

7月2日に中学校校長会がございまして、その際の指導事項といたしまして、小学校でこうした緊急点検を行うので、中学校校長でも参加希望があればぜひ小学校の会議に参加してほしい、あるいは参加できないまでも合同点検会議の結果について小学校と情報共有するよという指導を行ってまいる予定でございます。

自治協委員

大阪高槻市で直下型の大地震がありました。ブロック塀が倒れてきて女子学生が本当に悲惨な、悲しい亡くなり方をしたのですけれども、朝の交通整理をさせていただいてまして、その途中に、ちょうど登下校の道路に沿ったところの塀垣が、本

当にひびが入っていたり斜めになっていたところがありまして、以前からすごく気になっていたのです。もしかして倒れたらということで気になっておりまして、そういう塀垣を見つけて、どこに申し出たらいいのかわからないということ。

それから、民生委員で友愛訪問、高齢者、一人暮らしの友愛訪問を月1回やっているのですが、約100件あるのです。そこで、民生委員の方に、友愛訪問をしたときに、そういう登下校の道路に沿った危険な塀垣があったら申し出てもらおうかと考えているのですが、どうでしょうか。

教育次長

今回、通学路の緊急箇所の総点検の中で、国からは、危険なブロック塀とかそういうものがないかどうかということの点検するようにという視点は、出ていることは出ているのです。

ただ、ブロック塀をお持ちの方、ブロック塀がもし公共の建物であればそれは私どもの責任で何とかするのですが、ブロック塀、当然個人的な財産でございますので、なかなか強制的に何かをするということが難しいところではございます。

ただ、そういったものがあるのであれば、例えば区役所にそういった情報を提供していただいて、そういうものがたくさん集まってきたときに行政として何ができるかということは検討させていただくことになると思うのですが、なかなか、個人の所有物というのは手が付けられないというのが原則でございます、そこは少し、情報を共有させていただきたいと思います。

自治協委員

ありがとうございます。でも、見ていると本当に危険な状態なので、やはり公的なところだけだと、なぜなのかとふと考えて意見を言わせていただきました。

東区長

私からもひとこと言わせていただきます。

やはり通学路ですから、心配になるのは本当にあると思います。やはり子どもたちが歩いていく部分で、民家であってもどこであっても、とにかく塀があれば、それに何かあればやはり事故に結びつくところだと思います。

先ほど次長が言いましたように、まずはここが危険だということをお区にも教えていただいて、個人の壁ですから私どもに強制力はないにしてもお伝えすることはできると思います。大丈夫でしょうかと、子どもたちが大勢通りますので大丈夫でしょうかというようなことは言えると思いますので、やはりその辺の情報はいただければと思います。

自治協委員

今ほどの区に申し出るというのはどこなのかはあとで教えていただきたいのですが、今、国の基準ではブロック塀が2.2メートルということで、うちの通学路が、擁壁が3メートル少しで、ブロック塀が1.5メートルくらいなのです。そうすると、基準に入っていないのだけれども、その辺はどうなのでしょう。

副区長

今ほど区長が申しましたのは、基準に沿った形で、私どもで管理している、例えば市道に付随する市の施設であったり構造物であるという場合には基準といったものがなくなってまいりますけれども、今のはやはり、地域の方々が安全点検をされている、あるいは民生委員の方々がお気づきになった中で、こういったご意見がありましたというようなお伝えの仕方になると思いますので、あえて基準といったような考え方よりは、やはり皆様方のご要望がありますというお伝えをしていくということに

なろうかと思っておりますので、そのような考え方でいかがでしょうか。

あと、おっしゃっていただくところにつきましては、それぞれの活動の中で区役所にかかわりのある課があるかと思っておりますので、そこにお申し出いただいて、その後、区長のもとに集約していくという形で考えていただきたいと思います。

自治協委員

意見と、最後に質問を一つお願いします。

学校園の取組で、PTA、地域コミュニティなどあらゆる機会に協力、理解というようなことで、せっかくの機会なのでPTAの取組を少し皆さんにご紹介させていただければと思います。

ある校長先生が調査した結果によると、小学校の60パーセント強が、学校にすべてのPTA行事の書類づくりをお願いしているというような現状でございます。やはり、学校が作るべき文書もあるのですけれども、PTA、保護者が作らなければならない文書というものは必ずありますので、そういった部分で先生方に負担を掛けているということは間違いないということが証明されたということがあります。ですから、新潟市のPTA連合会では、今年、これを徹底的に取り上げまして周知徹底していきたい。そして先生方の負担を減らすべく、PTA、自分たちがやるべきことがあるのではないですかということを申し上げていきたいと思っております。

同じく、育成協というものもありますので、これは自分のところしか分かりませんが、育成協もやはり書類等、教頭先生であったり主幹の先生をお願いしているケースが多いのではないかと思いますので、その辺も少し考慮いただければと思います。今、保護者に対しても、市教委の方にPTAの総会に来ていただいていたりと、本当に周知すべくなるべく機会を多く作ってお越しいただいたりして協力していただいております。とはいえ、まだまだ全然、その内容について知らない人がほとんどという状況ですので、広めていきたいと思っております。それで、このような区教育ミーティングもいい機会だと思いますので、PTAと共に、地域の方にもやはり十分な周知をお願いしたいと思います。

最後、一つ質問なのですけれども、こういった取組を知っている人は、夜、学校を借りることが申し訳ないということで、別に会場を借りて集まっているということも実際にあるのですけれども、学校を改修するときに、ちらっと聞いた話ですと、そういう、まったく独立した部屋を作るというようなことはどうなのかと思っているのですけれども。そうすれば先生方関係なく、夜、そこを使えると。そういった計画はあるのでしょうか。お聞きしたいと思います。

地域教育推進課長

私どもが建物を設計しているわけではないのですが、実際の運用例ということでご紹介させていただきます。

新しく大規模改修、あるいは改造工事を進めている学校の中には、地域連携室、あるいは連携室と称して多くの方々が共通して使える部屋を用意している場合があります。その際の鍵の開け閉めも、学校の先生方が中心に使っていらっしゃる場所とは少し独立した形でお互いに入れられない状況を作り出すというような学校もありますし、いくつかの学校では独立してその場所を使っているというような例があります。

現在、各学校には、地域教育コーディネーターの皆さんがボランティアの皆さんとの打合せをしたりする部屋として、地域連携室が基本的に各校 1 室ずつありますので、そこを有効に使っていただくことが今の段階ではいいのですが、ただ、施設等になりますと、今はそのような体制ができていないところもありますので、可能などころから今後準備されていくかと思っています。

自治協委員

今の例でいいますと、先ほど育成協という名前が出たのですけれども、育成協や PTA や、私たち、育成協ですごく教頭先生とかほかの教員の方にご面倒を掛けているので、今年から事務局員を育成協から出しまして 6 人編成でやっておりまして、その人たちに文書を作ってもらって、回しているような感じでおります。

そして子どもたちには、メール便で、各地域の自治会長さんたちに運んでもらっているような状態です。

東石山中学校は大規模改修になりまして、一つの部屋を作っていただいて、ふれあいルームということで作っていただいて、小さな会議、役員会議をしたりなどしておりますし、そこは施設もすることができますし、鍵を借りるときは教務室へ行って借りてやっているような状況ですので、ほかの皆さんの学校もそのようにしていただければ教職員の方にも負担が少なくなるのではないかと思いますので、よろしく願いいたします。

自治協委員

第二次多忙化解消行動計画の縮減する六つの視点の 4 番目なのですけれども、先生方の多忙は、人件費を増やすしか解決方法はないのではないかと思います。とにかく現場は手が足りないと思います。

私事ですが、ある学校の算数の授業時間に先生のお手伝いをさせていただいて、少し理解できないお子さんとかに寄り添って一緒にやるボランティアをやっておりますけれども、とにかく先生方は忙しい。子どもさんがいる間は事務など取っている時間はないと思います。授業中に具合が悪くなるお子さんもおりますし、そういう対応もありますし、いろいろなことが起きますので、学習だけでも、先生方、本当に大変な思いだと思います。

そこで、この視点 4 のところにボランティア活用という計画が上がっておりますけれども、現実的に今行われているのか、それとも今後具体的にどのようにまで活用されていくのか、ここはとても期待したい内容ですので、ぜひお聞かせいただきたいと思います。

学校人事課
総括管理主
事

視点 4 の学級担任の事務支援ボランティアということですが、これまでは学習のサポートということで、学習ボランティアが授業の中に入っていました。

それとはまた別に、今、お話があったような、教員の多忙化を解消するために、本年度は学校事務支援員を小学校 5 校に配置しております。文部科学省の補助事業でもありますので、この支援員を数多く配置できれば、学校の、例えば印刷であったりいろいろな電話応対であったり、学級担任がここはやっていただきたいというような仕事を手伝ってもらえる方、そういう方を入れていく、配置していくという方向で今動いています。

ただ、それも予算に限りがありますので、できれば地域のボランティアの方に入っ

ていただいて、先生がかかわらなくても、先生ではなくてもできるようなことについてお手伝いいただけると大変ありがたいと思っていますので、ぜひ各学校の校長先生に申し出ていただいて、学校にますます入っていただくというような形を考えているところです。

自治協委員

先ほど自治協委員からご質問があった夜の会議の件なのですが、木戸小学校は、昨年、竣工式がありました。それで、シャッターで仕切られるように作られています。地域の方が外の入り口から入って、教室には行かれないようにシャッターで仕切られていますので、前日に教務室から鍵をお借りして次の日の朝お返しするというので、各団体が使えるようになっております。

それから、私は木戸小学校のコーディネーターをやっておりますが、木戸小学校はパートナーシップ事業でボランティアさんにとっても多く入っていただいています。毎日 10 人から 20 人のボランティアさんが、朝から、朝は読み聞かせをされたり、授業の見守りをされたり、体育の用具の出し入れをされたり、給食の配膳のお手伝いや、子どもたちと給食を一緒に食べて、また午後の授業に出られる方がいらっしゃる、クラブの支援、クラブのときにはボランティアさんが 15 人入っておられます。指導してくださっています。あとは委員会であったり、登下校の見守りはもちろんなのですが、たくさんの地域の方、それから保護者の方もたくさん入っていただいています。今は毎日プールのボランティアさんが、プール授業の見守りに 60 の方が登録してくださって、ひとクラスに最低 4 人は入っていただいています。とても暑い中、2 時間単位でお願いしております。そうやって、とても、いろいろな面で助かっています。

でも、今、一つ課題なのは、お願いするにも、ボランティアさんは、できれば打合せをしたいのですが、先生方も忙しいので打合せの時間がなかなか取れないのです。そうすると、何をしたいのか分からないというときもあって、打合せをしたいという要望も出るのですが、でも学校に入っているボランティアさんは、いつも先生方がお忙しい姿をご覧になっていらっしゃるの、なかなか打合せができなくても自分たちが何かしら役に立てばということで入っていただいています。

それで、何も用事がなくても、とにかく教室に入っていく「居るボラ」というのを木戸小学校では目指しておりますが、そこがもっと拡充していくことを今課題としてやっております。

自治協委員

防災安全教育のことですけれども、資料にはあまりにもさらっと書いてあって、何を質問したらいいかと非常に考えて、少し時間が掛かりました。

実は、先般、6 月 14 日、県の主催で、小宮先生、防災の先生がいらっしゃいますが、犯罪というのは起るべき場所があってそこで発生するというので、何回かあの先生の話の聞いたのですけれども、今回、小針小学校の事件があって、どのようなことをおっしゃるのだろうかと思って、新たな関心を持ってお聞きしたのです。

そこで、私たちがやっている、例えば防災教育とか防犯教育、それはほとんど、あなた方がやっているのはほとんど意味がないです。防犯的には 20 パーセントしか効果がないとはっきり断定されたのです。小宮先生の言われる犯罪機会論を、我が

国がそれに沿って取り組まなかったからずっと犯罪が発生しているということで、私は少し疑問があったので、そのことに反論しまして、その場ではなかなか反論できなかったのですが、新潟日報の窓の欄に投稿しました。新潟日報の窓の欄、たしか 25 日に私の名前が出ていますのであとでご覧いただければと思いますけれども。というのは、例えば小学校で「いかのおすし」とか、あるいは四つのアイテムで最近では小学校 1 年生でやっています。自分の風船、防犯ブザー、大声を出す、ノーランドセル、これで四つのアイテム。それを小学校 1 年生に教えているのだけれども、4 年生になってこの四つのアイテムを覚えているかという覚えていないのです。この四つのアイテムを 4、5 年生の教室に貼ってあるかという、何もない。ですから、その防犯教育が、体験教育がほとんど一過性に終わっているのではなかろうかという思いで、この 10 ページの資料からも、それすらないので。最近はどういうことをやっていますということもない。ですから、学校も子どもたちも、せっかく習ったことを忘れ去っているのかと残念でなりませんでした。

ということで、小宮先生の防犯、犯罪機会論に若干反対して、やはりこれから私たちの取り組んできたものを、学校も地域もPTAも、特に保護者、安全マップづくりなどが、表彰されることが目的ではなくてみんなで参加する、みんなで語り合うことが大事なのだということ肝に銘じて学校にやっていただきたいと思います。

私の実体験から、これまではどちらかというと、学校はそういう地域の防犯については少し消極的であったように思っています。

司 会

ご意見、ありがとうございます。一過性の指導で終わらないようにということで、学校現場でも胆に銘じていきたいと思っております。

お時間、もう一つ、二つ、大丈夫なのですけれども、いかがでしょうか。

自治協委員

お願いなのですが、10 年前、政令市になってから、教員の採用は新潟市独自でやっていると、昔は県単位で採用していたと思うのですが、新聞に、新潟市の教員の志願者が随分少ないという記事が載っておりました。今の議論の中でも、確かに先生方が忙しいということは分かりますし、それを何とか解決する方法も必要かと思うのですが、ただ、大変だ、大変だ、仕事量が多い、先生方は大変だということばかりをあまり強調すると、ますます先生として、教員として志願者が減ることになりますと、先生の質が落ちれば、結局は教育の質も落ちるということにつながると思いますので、新潟市の学校の先生方は素晴らしい仕事をしているという方面のPRもぜひお願いして、多くの方が新潟市の教員を目指して、たくさん応募してくれるような環境づくりもぜひお願いしたいと思います。数字は忘れましたが、たしか新潟日報にそういう記事が出たと思いますので、少し心配しております。

学校人事課
総括管理主
事

学校人事課です。教員の採用を担当している課です。

今のご意見、本当にごもつともだと思っています。新潟市は、政令市になりまして、県から権限が包括的に移譲されました。教員の採用についても新潟市独自で行うことができることになりましたので、本当に魅力ある教員を採用できるように、いろいろところで新潟の教育のよさをアピールしながら採用につなげていきたいと思

司 会

ます。ありがとうございました。

教員、もしくは教育委員会へのエールと受け止めました。大変ありがとうございました。

それでは、この辺で意見交換を終了させていただきたいと思います。皆様から大変貴重なご意見、ありがとうございました。

最後に、教育委員から一言ずつ感想をちょうだいしたいと思います。田中委員、お願いいたします。

田中教育委員

大変ありがとうございました。

今、お話をお聞きしながら、私も冒頭申し上げたのですけれども、本当に東区この自治協議会の皆さんが、子どもたち、そして地域のこと、学校のことを心から愛し、しっかりと支えているという感じをもちました。

委員から市P連としてのお話がありました。私ども教育委員会、毎年、年1回、市P連の役員の方々と交流をする機会がございます。今年も1月でしたでしょうか、懇談会を持たせていただきまして、会長から力強く、今の学校の多忙化の状況を何とかPTAとして支えていきたい、そして保護者と学校が一緒になって、あるいは地域が一緒になって学校のために、そして子どもたちのために力を尽くしていきたい、こういうお話をいただきました。そして今また、この東区自治協議会の委員としてのお立場でまたお話をいただき、本当にありがたいと思っております。

学校現場が多忙になっている、これは全国各地で言われているわけですが、現在、新しい学習指導要領への対応、そして子どもたち、あるいは保護者への対応、本当にさまざまな課題がたくさんあるわけです。それは、皆様お分かりのように、学校だけで何とかするということはもうできない状況になってきています。だからこそ、保護者の皆さんや地域の皆様のお力が本当に大事になってくるわけであります。そういう意味では、今日、本当にいいお話をたくさん聞かせていただいたと思っております。

今ほど、副会長から教員の志願率の低下というお話がありました。新潟日報にも載っております。私は新潟大学に勤めているのですけれども、今日も午前中、会議をやってこちらに駆け付けたのですが、大学では、教員を志望する学生を対象に、教育委員会の皆様からお出でいただいて、学校現場について、あるいは教育委員会の方針、あるいは教育委員会としての取組の話をさせていただいています。今年1月、今の4年生がまだ3年生の頃にその機会を持ちました。そのときに、ある学生の感想ですが、「今、学校では多忙化だ、多忙化が非常に言われている、とするとブラック企業という言葉も言われている。大変心配だったのだけれども、今日の教育委員会の方の説明で力が湧いてきました、先生になりたいという気持ちが強くなりました。」こういうお話をいただきました。それはなぜかと言いますと、教育委員会の方が来て、今の学校の現状、確かに多忙だけれども、こういうふうにして先生たちは一生懸命子どもたちのために頑張っているし、それを教育委員会はこういうふうにして支えていますという具体的なお話があったわけです。そういう意味で、本当に、これからの未来の子どもたちを支える、未来の先生の卵、この学生さんたちが今また

新たに希望をもって頑張っているわけであります。確かに志願率が下がってきている一つの要因としては一般企業の雇用率が上がってきているということもあるかと思えますけれども、教育委員会、そして大学、一緒になりながら、子どもたちのために、より良い教育を進めていきたいと考えております。

今日は本当にすばらしいお話をたくさん聞かせていただきました。ありがとうございました。

小野沢教育
委員

本日は本当にありがとうございました。

皆さんが温かい目で地域を、そして子どもたちを見守っておられることが本当によく分かりました。ボランティアで、それこそプール授業を見守っている方たちが 60 人もおられるとか、部活動を支えているボランティアの方も 15 人おられるというような具体的な数字も教えていただきました。そして、見守っている中で、学校の塀を気にされているかもしれないけれども、地域にはこういうところがありますというような、そこを子どもたちが歩いているだけではなく、もしかしたらそのご家庭の方もその塀だけがをされるかもしれない、そういった目で見ると、本当に皆さんが、子どもたちを支える意味で、また、お年寄りを支える意味で、まちの中を歩いておられるところでたくさんのお発見があるということ、つくづく教えていただきました。

そして、学校の先生たちの仕事ぶりも本当にすばらしい。先ほど田中さんもおっしゃったように、子どもたちは本当に未来を作っていく未来人ですから、そういった未来人を指導してくださる先生方を何かしらの形で支えていけたらいいなという思いも強くなりました。

今日は本当にいいお話をたくさん聞かせていただきました。ありがとうございました。

司 会

ありがとうございました。

皆様、本日はたくさんのお話、そして貴重な意見をありがとうございました。これで懇談を終了させていただきます。

以上をもちまして、第 1 回東区教育ミーティングを終了いたします。長時間にわたり、ありがとうございました。

